

2023 年行事予定

- 4～5月 第1回理事会
(開催形式未定)
- 5月18日(木) 第92回教育セミナー
～30日(土) (オンデマンド)
- 6月23日(金) 日本臨床検査専門医会第
2回年次大会
- 6月23日(金) 第2回理事会、生涯教育
講演会、2023年度定時社
員総会、第3回理事会
- 7月頃 第40回臨床検査振興セミ
ナー (オンデマンド配信)
- 9月頃 第4回理事会
- 11月11日(土) 臨床検査の日
- 11月16日(木) 第70回日本臨床検査医
学会学術集会(長崎)
第5回理事会、2023年度
臨時社員総会・講演会・
共催シンポジウム

【目次】

- p.1 巻頭言
- p.2 「臨床検査医学への提言」第7回
- p.3 「臨床検査医学への提言」第7回、事務局
からのお知らせ、第2回日本専門医機構
基本領域臨床検査専門医認定試験について
- p.4 2022年度一般社団法人日本臨床検査専門
医会臨時社員総会報告、2022年度臨時総
会講演会報告、第69回一般社団法人日本
臨床検査医学会学術集会関連行事報告、
2023年第2回年次大会のお知らせ、第40
回振興セミナー開催予告、2023年行事予定
専門医会ネットワーク BBS 掲示板利用開始
のお知らせ、2022年度役員選挙について、
2023年度教育セミナー開催予告
- p.5 2023年度第2回年次大会2022年度会費振
込のお願い、住所変更・所属変更に伴う事
務局への通知およびメールアドレスの登録の
お願い、会員の声：次世代の臨床検査専門医
- p.6 会員の声、編集後記



りんしょう犬さん LINE スタンプの検索方法
LINE→ウォレット→スタンプショップ
↓
「りんしょう犬さん」を検索
検索結果→「クリエイターズ」を選択

<https://store.line.me/stickershop/product/8679516>

※ 収益が発生した場合は全て「臨床検査」の重要性を
社会に伝える活動に使用させていただきます

巻頭言

日本臨床検査専門医会第2回年次大会のお誘い

昭和大学横浜市北部病院
大会長 木村 聡

専門医会の皆様、大変お待たせいたしました。

臨床検査専門医会として30回の歴史を重ねてまいりました恒例の「春季大会」は、当会の法人化を機に「年次大会」に version up、昨年は鹿児島大学で橋口照人教授のもと盛大に開催されました。今年は第2回大会が東京の下町、旗の台にある昭和大学で開催されます。私は大会長の昭和大学横浜市北部病院、木村 聡です。たくさん専門医の単位が取れる講習会を企画しておりますので、よろしくお願ひ致します。

今年のメインテーマは「Catch up! 遺伝子検査」です。

急速な発展を続ける遺伝子検査は、検査医として避けて通れぬ領域となりました。職場でも遺伝子検査に詳しい医師として活躍が期待されているのではないのでしょうか。一方で医学部受験時に「生物」でなく「物理・化学」を選択された先生が多いと聞いています。これらの先生にも判りやすく学べる講座を用意しました。企画には遺伝子委員会の千葉大学・松下一之先生、順天堂大学・田部陽子先生、東京大学・西川真子先生のご指導をいただきました。

開催概要

期日：2023年6月23日(金)・24日(土)
会場：昭和大学上條記念館
(東京都品川区旗の台1-1-20)

- 生涯教育講習会 6月23日(金)14時～
検体検査の現状の課題と今後の展望
座長：田部陽子先生(順天堂大学)
 - 地域中核病院での臨床検査専門医の
役割 その可能性と責務
米川 修先生(聖隷浜松病院)
 - 検体検査をめぐる医療制度：法律と
その問題点
佐守友博先生(元日本臨床検査専門医
会会長・明和病院)
- 総会・第3回理事会 23日16時20分～
- 特別企画「Catch up! 遺伝子検査」
24日9～15時40分
 - 遺伝子検査の基礎知識
座長：西川真子先生(東京大学)
 - 遺伝子とその働きから遺伝子関連検
査を考える
岩泉守哉先生(浜松医科大学)
 - 遺伝子関連検査の基礎知識
～種類と手順の理解のツボ
西川真子先生(東京大学)
 - 遺伝子検査の実際
座長：中山智祥先生(日本大学)
松井啓隆先生(国立がん研究セ
ンター)

- 感染症検査への応用と注意点
上養義典先生(慶應義塾大学)
 - 生殖細胞系列 解析の実例
 - 心電図と遺伝学的検査(QT 延長症候
群など)
藍 智彦先生(順天堂浦安病院)
 - 血液検査と遺伝学的検査(AT 欠損症、
PS 欠損症など)
窓岩清治先生(済生会中央病院)
 - 体細胞遺伝子検査～がんゲノム医療
の実際と今後の展望
渡邊広祐先生(東京大学)
- 3-3. ランチョンセミナー
座長：矢富 裕先生(東京大学)
肺癌の遺伝子検査
萩原弘一先生(自治医科大学)
- 3-4. 臨床検査医に期待される役割と展望
(標準化に向けた動き、2次所見の扱
いを含めて)
座長：福地邦彦先生(昭和医療技術専
門学校・昭和大学)
演者：松下一之先生(千葉大学)
4. 病理学領域における遺伝子検査の品質
管理の現状と将来展望(仮題)
座長：山田俊幸先生(自治医科大学)
演者：鬼島 宏先生(弘前大学)

いずれの講演も日本専門医機構の講習単位を取得出来るよう、申請予定です。

なお開催費用の観点から今回は web 同時中継ではなく、大会終了後の一定期間、オン
デマンド配信(7月3日～17日)を予定しております。

COVID-19 対策に留意しながら開催の予定ですが、状況によっては4年ぶりの懇親会
も検討しております。

宿泊につきましては大変恐縮ですが各自でご手配をお願い申し上げます。

会場に近い五反田や大井町、品川駅の周囲には多数の宿泊施設が、さらに旗の台には
東横イン、戸越銀座には APA ホテル等がございます。

臨床検査医学への提言

東北大学 名誉教授
賀来 満夫

今回、九州大学名誉教授 濱崎 直孝 先生より御推薦いただき、日本臨床検査専門医会会報 (JACLAP NEWS) に寄稿する機会をいただき大変感謝している。

本稿では、私と臨床検査医学との関わりについて紹介させていただくとともに、東日本大震災をはじめとする自然災害そして感染症パンデミックにおける臨床検査、臨床検査医学の重要性、最後にワンヘルスコンセプトとそのコントロールの重要性について、私見を述べさせていただくこととする。

I. 私と臨床検査医学との関わり

私は 1981 年 (昭和 56 年) に長崎大学医学部を卒業し、大学病院で 1 年間臨床研修を行った後、故臼井敏明教授が第 2 代教授として主宰されていた長崎大学医学部臨床検査医学講座 (初代教授は故糸賀 敬先生、第三代教授は故上平 憲先生、第四代現教授は柳原克紀先生) の大学院に入学し、当時、教室の講師であられた故山口恵三先生 (後に東邦大学医学部微生物・感染症学講座教授に就任) のもとで、臨床検査医学ならびに臨床微生物学の研究に従事し、レジオネラに関する研究テーマで学位を取得した。

当時の臨床検査医学教室の大学院には、大阪大学医学部感染制御学教室前教授である朝野和典先生、東邦大学医学部微生物・感染症学教室教授である館田一博先生、石井良和先生、国際医療福祉大学医学部感染症学教室教授である松本哲哉先生、東北大学医学部臨床微生物解析治療学寄附講座教授 (現栗原市立栗原中央病院 感染制御センター長) の平潟洋一先生などが在籍し、細菌の薬剤耐性メカニズムや病原性解析などに関する様々な研究テーマに精力的に取り組み、多くの研究業績が生み出された。

その後、私は 1989 年 (平成元年) に自治医科大学呼吸器内科学教室に在籍し、当時、自治医科大学臨床病理学教室教授であられた河合 忠先生に臨床検査医学全般について指導していただき、1990 年 (平成 2 年) には長崎大学医学部附属病院検査部の講師に着任し、臨床検査医学、臨床微生物学の研究・教育に取り組むとともに、当時はまだ珍しかった感染管理・感染制御の分野に関する研究に取り組み始めた。

1995 年 (平成 7 年) 7 月から聖マリアンナ医科大学微生物学教室に在籍した後、1999 年 (平成 11 年) 3 月に東北大学大学院医学系研究科分子診断学分野 (後に感染制御・検査診断学分野、さらに総合感染症学分野に改名) 教授に就任し、併せて附属病院検査部長として、研究・教育・診療の任を担うこととなった。教室の臨床検査医学分野の研究においては、臨床微生物学の研究を中心に研究が進み、教授在任中に 18 名の教授を輩出した。さらに、検査部では夜間・休日検査室では 2003 年 (平成 15 年) に大学病院検査部単独としては国内で第一号となる ISO9001 認証を取得し、臨床検査の国際的な標準化を推進する「臨床検査医学におけるトレーサビリティ合同委員会 (JCTLM)」により、全世界で 100 ヲ所、日本国内では 6 ヲ所しかないレファレンスラボとして登録され、さらに 2011 年 (平成 23 年) 4 月には ISO15189 認定 (臨床検査室一質と適合能力に対する特定要求事項) を取得し、現在に至っている。

その後、2019 年 (令和元年) に東北大学を退官したが、医学部卒業後、すぐに臨床検査医学に触れ、以後、現在に至るまで、実臨床における臨床検査の重要性、そして、様々な臨床検査の精度を高め、データの解析評価や新たな診断法の開発研究そして臨床病態を解析評価する、臨床検査医学という学

問分野の重要性を深く認識していたが、その認識は東日本大震災の発生、新型コロナウイルス感染症のパンデミックの出現によって確信となっていった。

II. 自然災害そしてパンデミックにおける臨床検査・臨床検査医学の重要性

2011 年 (平成 24 年) 3 月 11 日の地震 (マグニチュード 9.0) の発生、そして、その後、東北の湾岸地域を襲った巨大津波は、我が国の歴史上かつてなかった規模の未曾有の災害をもたらした。特に被害が大きかった東北の湾岸地域では、環境衛生の悪化に加え、電気や水、ガスなどのライフラインが完全に断たれ、地域の一次医療を支えていた地域のクリニックや診療所、二次医療を担当していた拠点病院も甚大な被害を受けるなど、まさに地域医療そのものが崩壊した状態となり、医療施設はもちろんのこと、避難所での感染症の発生が懸念される状況に陥ることとなった。

発災後、初期には環境からヒトへ伝播する環境微生物が原因となる破傷風やレジオネラ感染症などの発生がみられたことに加え、多数の人々が狭い空間のなかで生活を余儀なくされていた避難所などでは、インフルエンザやノロウイルス感染症など、高率にヒト-ヒト伝播する微生物が原因となった感染症が発生した。さらに、避難所では水や電気などのライフラインが途絶していたため、寒さや栄養不足などからの基礎疾患の悪化に伴う続発性の感染症や不十分な口腔衛生・誤嚥などが原因となった二次性の細菌性肺炎症例などが増加し、拠点病院に搬送される患者が増加した。

東北大学病院においても検査部のあった建物が被害を受け、一部の血液検査などを除き、生化学検査、血清検査、免疫学検査、微生物学検査など、ほとんどの臨床検査が行えなくなるという事態に陥った。様々な疾患に罹患している入院・外来患者の診断や病態解析などができなくなる事態となり、東北大学病院のすべての診療科の誰もが、あらためて臨床検査の重要性を再認識することとなった。

巨大地震という自然災害の発生により、臨床検査の重要性が強く認識されたことで、検査部の再建が東北大学病院の最優先課題となり、2013 年 (平成 25 年) 3 月には、新たな検査棟への検査部の移転、機器更新などが行われ、我が国初となる「震災対応総合臨床検査システム」が構築された。これらの新たなシステムに基づいた検査は、認定臨床微生物検査技師、認定血液検査技師、認定一般検査技師などの資格認定を取得した臨床検査技師を中心に検査部医師や各診療科の医師と連携し、高度先進医療施設に相応しい質の高い検査が提供されることとなった。

また、今も大きな問題となっている新型コロナウイルス感染症は、2019 年 (令和元年) 12 月 31 日に中国武漢で発生した原因不明の肺炎として報告されて以来、全世界で感染が拡大し、2023 年 (令和 5 年) 3 月 1 日の時点で、世界で 7 億 5,830 万人以上の感染者数、685 万人を超える死者数、我が国でも 3 月 4 日の時点で、3,325 万人以上の感染者数、7.2 万人を超える死者数が報告される状況となっている。21 世紀になって人類が経験した重篤化する新型コロナウイルス感染症としては 2002 年 (平成 14 年) の SARS、2012 年 (平成 24 年) の MERS、そして今回の新型コロナウイルス感染症が知られているが、今回の新型コロナウイルス感染症が世界的流行：パンデミックとなり、これほどの広がりや被害が起こることは、人類にとって、1918 年 (大正 7 年) に発生したスペイン風邪に匹敵するほどの出来事であり、まさに 100 年に一度の感染症：メガクライシス (巨大な危機) といっても過言ではない。

感染症対応のポイントは、迅速かつ確実な診断に基づきの

確な治療を行うこと、そして感染予防を徹底し、感染の蔓延を防ぐことにあるが、今回の新型コロナウイルス感染症に対しては、そのいずれもが十分でないところに大きな問題点がある。無症状者病原体保有者が一定数存在しているため、感染症対策が非常に難しく、全国の医療施設や老健施設で院内感染・施設内感染、家庭、学校、職場などでの市中感染が相次いで発生していること、また、感染経路として、咳やくしゃみなどだけでなく、会話などから生じるマイクロ飛沫が関与しており、感染予防が困難であることに加え、さらにパンデミックのなかで、変異株が相次いで現われ、伝播性の高い変異株により再び感染拡大が起こることや高齢者や基礎疾患を有している者が重症化し、若年者などでも後遺症がおこることがあるなど、新たな課題や問題が生じている。

今回の新型コロナウイルス感染症パンデミックの出現は、我々人類のすべての領域・分野に大きな影響を与えたが、自然災害の発生の場合と同様に、臨床検査・臨床検査医学の重要性があらためて浮き彫りとなった。

特に、新型コロナウイルス感染症の診断にとって重要なPCR検査などの遺伝子検査については諸外国に比べ、臨床検査分野での検査機器の導入が遅れたことや遺伝子検査に従事する人材の不足などの課題が明らかとなったことに加え、抗原定性検査や抗原定量検査についても、PCR検査との検出感度や特異度の比較、検査に用いる臨床検体の評価などが初期には必ずしも十分に行われていなかった。

さらには新型コロナウイルス感染症罹患患者の臨床経過(病態)における各種検査データの解析評価に加え、ワクチン接種による中和抗体産生などの液性免疫機能や細胞性免疫機能の解析の必要性など、今後とも出現するであろう、新たなパンデミックに対し、対応していくべき臨床検査や臨床検査医学分野における基礎的・臨床的研究の新たな課題が浮き彫りとなり、今後の臨床検査医学の目指すべき方向性が明らかになったことを確信している。

III. ワンヘルスコンセプトとそのコントロールの重要性

現在の感染症を取り巻く問題点としては、感染症が“グローバル化・ボーダーレス化”していることに加え、感染症の“原因微生物が多様化していることが挙げられる。感染症の“グローバル化・ボーダーレス化”については、今回の新型コロナウイルス感染症でも明らかとなったように、人々の交流や交通の発達により、世界のある地域で発生した感染が一気に世界中にひろまり、世界的な感染拡大：パンデミックを惹き起こすこととなる。

また、近年、感染症の原因となる微生物が多様化し、単にヒトからヒトに微生物が感染伝播するだけではなく、動物由来や環境由来の微生物がヒトに感染を起こすことが明らかとなってきた。「ワンヘルス」という考え方は2004年米国野生生物保護学会により提唱されたもので、感染症をコントロールしていくためには、これまでのように、単にヒトからのヒトへの微生物の感染伝播だけを考えるのではなく、動物由来の微生物や環境由来の微生物のヒトへの感染伝播を考えていく必要があるとの考えに基づいている。すなわち、今後、感染症に対応していくためには、これまでの感染症に対する考え方を超えたコンセプト、『ヒトそして動物、環境を包括したワンヘルス』、いわゆる一つの健康という新しい考え方、ニューコンセプトに基づき、対応していくことの重要性が認識されるようになってきている。

事実、新興ウイルス感染症では、2009年(平成21年)に発生した新型インフルエンザはブタのインフルエンザウイルスがヒトに感染を起こし、2012年(平成24年)にサウジアラビアで

発生したMERS：中東呼吸器症候群ではラクダからの感染、そして2014年(平成26年)に発生したエボラ出血熱はコウモリなどの動物が感染源となったことが知られている。また、薬剤耐性菌でも、ヨーロッパでは2000年代に入り、ブタ由来のMRSA：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌のヒトへの感染事例が報告されており、バンコマイシン耐性腸球菌VREや、ESBLと呼ばれる第三世代セフェム系抗菌薬に耐性を示す大腸菌が、鶏肉が感染源となり、ヒトへ感染を起こすことも明らかとなってきた。また、東日本大震災などの災害発生時には、環境由来微生物である破傷風菌やレジオネラ菌による感染症が発生するなど、災害時において、環境由来微生物へいかに対応していくかが大きな課題となっている。

このように、ワンヘルスという新たな視点、ワンヘルスの時代において、感染症に対し迅速かつ的確に対応していくために、今後、臨床微生物検査に求められるものは何かを早急に考えていく必要がある。

さらに、臨床微生物学という視点だけでなく、より広い臨床検査診断学の今後のさらなる発展を目指していくためには、「人そして動物、環境を含むワンヘルスアプローチ」という多面的な視野での対応が不可欠であり、医学領域だけでなく、獣医学領域や環境科学領域などの、様々な分野・領域間で情報の共有化をはかり、共同研究などを含めたコンソーシアム：“アカデミアネットワーク”を構築していく必要がある。

ポストコロナの新たな時代を迎えようとしている今日、“アカデミアヒューマンネットワーク”の構築こそが、臨床検査医学の今後のさらなる発展に大きく寄与する、最も強力なワクチンとなることを最後に強調して、本稿を終える。

事務局だより

【事務局からのお知らせ】

【会員動向】

2022年1月30日現在数611名, 専門医531名

【新入会員】(敬称略)

日野 雅之：大阪公立大学大学院医学研究科血液腫瘍制御学
松永 絢乃：防衛医科大学臨床検査医学研究講座
山澤 稚子：慶應義塾大学医学部臨床検査医学
三ツ橋雄之：慶應義塾大学医学部臨床検査医学
福島 理文：順天堂大学医学部臨床検査科

【所属・その他変更】

今年度は要覧発行の年であるため、3月発送予定の「一般社団法人日本臨床検査専門医会要覧2022」をご参照ください。

【退会会員】(敬称略)

片山 揚誠：PCL盛岡病理細胞センター
滝口 純：東京大学医学部附属病院検査部

【第2回日本専門医機構基本領域臨床検査専門医認定試験について】

日本専門医機構制定の臨床検査専門医制度による「2022年度実施第2回臨床検査専門医認定試験」は、2022年8月に一次試験が行われ、下記合格者11名が、同11月に開催された日本専門医機構理事会での二次審査後、日本専門医機構基本領域臨床検査専門医として認定されました。11名中10名が本会会員で、2022年度教育セミナーの受講者です。合格おめでとうございました、今後のご活躍を期待します。

石丸 直樹 大石 沙織 越智 小枝 川口 憲治
佐藤 碧 清水 直美 中野 正祥 野尻明由美
東 貞行 政木 隆博 森田 洋平(50音順/敬称略)

【2022年度一般社団法人日本臨床検査専門医会 臨時社員総会報告】

2022年度一般社団法人日本臨床検査専門医会臨時総会は2022年11月17日(木)に宇都宮市 栃木県総合文化センターホール棟2階 サブホールにて開催されました。

現地参加者48名および委任状249通をもって、定款17条の定める定足数を満たしたため同会は成立しました。

<審議事項>

第一号議案：議事録署名人の選任

下記2名が推薦されました

三井田 孝先生 山田 俊幸先生

第二号議案：2023年度名誉会員・有功会員の推薦について

名誉会員：清島 満先生

有功会員：五十嵐 俊彦先生、黒住 昌史先生

野田 裕先生、牧野 和彦先生

山本 洋介先生、渡邊 眞一郎先生

第一号～第二号議案は承認されました。

<報告事項>

1. 各委員会報告
2. 次期役員選挙について
3. 2023年度年次大会について

【2022年度臨時総会講演会報告】

2022年度一般社団法人日本臨床検査専門医会臨時社員総会に引き続き総会講演会が開催されました。本年は「臨床検査の保険診療について」をテーマに、ゞ谷直人理事長が座長をつとめ、東條尚子先生にご講演いただきました。現地参加・オンデマンド視聴合わせて274名の聴講がありました。

【第69回一般社団法人日本臨床検査医学会学術集会 関連行事報告】

第69回一般社団法人日本臨床検査医学会学術集会における、本会関連行事として、日本臨床検査医学会チーム医療委員会と本会教育研修委員会の共催により、11月19日土曜日にシンポジウムが開催されました。「地域社会を広げる臨床検査専門医の多様性」を大テーマとし、全国各地でご活躍いただいている4名の先生方による講演、討論会が行われました。

【2023年第2回年次大会のお知らせ】

会 期：2023年6月23日(金)～24日(土)

大会長：木村 聡(昭和大学北部病院 臨床病理診断科)

テ マ：「Catch up！ 遺伝子検査」

開催形式：現地会場 + オンデマンド配信

(会場：昭和大学上條記念館)

詳細は決まり次第本会ホームページ等でご案内いたします。

【第40回臨床検査振興セミナー開催予告】(渉外委員会より)

第40回臨床検査振興セミナーは、以下の日程で開催予定です。本会賛助会員、また個人会員の皆様にご参加いただけます。詳細決定次第、ホームページ・会員宛メールにて詳細ご案内します。

開催形態：WEBセミナー(オンデマンド配信)

配信日(予定)：2023年7月27日(木)～8月10日(木)

内 容：(講師敬称略)

講演1(仮題)「ISO15189 これまでとこれから」

講 師：積水メディカル 検査事業部 国内営業部

営業推進ラボクリエイティブグループ 人見 博也

講演2「人由来試料の利用 - 英国の経験からいえること」

講 師：東京学芸大学 准教授 日本臨床検査医学会倫理
委員会外部委員 佐藤雄一郎

*上記講演1・2とも臨床検査専門医更新単位を申請予定です。

【2023年行事予定】

：詳細検討中の内容は後日ホームページ等でご案内いたします。

3月4日(土) 第8回理事会(Zoom会議：終了)

4～5月(未定) 第1回理事会(開催形式未定)

5月18～30日 第92回教育セミナー(オンデマンド配信)

6月23日(金)～6月24日(土)

日本臨床検査専門医会第2回年次大会

23日(金) 第2回理事会、生涯教育講演会、2023年

度定時社員総会、第3回理事会

7月頃 第40回臨床検査振興セミナー

(オンデマンド配信)

9月頃 第4回理事会

11月11日(木) 臨床検査の日

11月16日(木)～19日(日)

第70回日本臨床検査医学会学術集会(長崎)

第5回理事会、2023年度臨時社員総会・


講演会・共催シンポジウム

【専門医会ネットワーク BBS 掲示板利用開始のお知らせ】

(広報ネットワーク運営委員会)

ホームページ上の会員専用ページ「専門医会ネットワーク BBS」掲示板の構築が完成し、ご利用可能になりました。本掲示板は、2020年に使用したSARS-CoV-2掲示板のブラッシュアップ版となっており、臨床検査の日常的な疑問を掲示板上でシェア、検査医の知識共有に役立てることが主な目的です。例えば、若手から熟練、非専門領域医から専門領域医間の質疑・応答、機器取扱いに関して等の知識シェアなど活発にご利用を期待しています。

本 会 URL：<https://jaclap.org/> (ID/PWの入力が必要です)

(P C 版 = 右上 )

こちらをクリックしてください

(スマートフォン=「会員専用入り口」)

こちらからおすすみください

【2022年度役員選挙について】(選挙管理委員会)

立候補者数が選出予定数(選挙理事候補者10名、監事候補者1名)内でした。

よって、選挙管理委員会規程第3条により、選挙は実施せず、全ての立候補者が選挙理事候補者ならびに監事候補者となりました。

◆ 選挙理事候補者10名(五十音順：敬称略)

尾崎 敬、鯉淵 晴美、幸村 近、ゞ谷 直人、田部 陽子、

福地 邦彦、増田 亜希子、松下一之、村上 正巳、山田 俊幸

◆ 監事候補者 1名(敬称略)

菊池 春人

* 上記、専門医会ネットワーク BBS (ID/PW)、選挙理事候補者の所信表明は2月初め郵便にて発送いたしました。万が一届いていない場合は、住所変更などの登録変更手続きが反映されていない可能性があります。事務局までご連絡ください。

【2023年度教育セミナー開催予告】(教育研修委員会より)

2023年度教育セミナーにつきまして、下記の通り開催を予定しております。

開催形式：講義資料配布＋講義動画オンデマンド配信
(受講後、MCQ問題を回答いただいた方には受講証を発行いたします。

* 機構専門医研修プログラム整備基準：2. 研修方法 ②臨床現場を離れた学習(1)に該当)

配信日程：2023年5月18日(木)～30日(火)

講義内容：一般臨床検査学/臨床化学・免疫学/臨床血液学/臨床微生物学/輸血学/遺伝子検査学/臨床生理学/臨床検査診断特性評価/臨床検査室管理総論・精度管理

募集期間：4月初旬～1ヵ月程度(募集期間・方法の詳細についてはホームページ上でご案内いたします。)

参加費用：8,000円

注意事項：本会会員のみ受講可能です。非会員の方には申込と同時に入会申請をお願いしております。学生、初期研修生の方は非会員の方も受講可能です。

本セミナーは、臨床検査専門医に必要な知識・技術をこれから習得していこうとする方へのガイドを提供することを主な目的としております。会員の先生方のお近くに臨床検査専門医認定試験受験予定の方、臨床検査医学に興味・関心のある研修医・医学生の方などがいらっしゃいましたら、お声をかけをお願いします。

なお、専門医資格既得者他、既に日常業務で臨床検査に携わっている方が、ブラッシュアップの目的で受講されることも歓迎いたします。

【2022年度会費振込のお願い】

2022年度年会費未納の会員様宛てに昨年12月、会費振込用紙を再度お送りしました。年度末(2023年3月末)が近づいておりますので、お納めいただいていない会員の方はお早めに振込みをお願いいたします。なお、2023年度年会費につきましては、年度明け4月以降に振込用紙の発送を予定しております。

2022年度年会費：10,000円(2022年4月1日現在、70歳以上の方は5,000円)

銀行名：ゆうちょ銀行

金融機関コード：9900

店番：019 店名：〇一九店(ゼロイチキウウ店)

預金種目：当座 口座番号：0020509

口座名：一般社団法人日本臨床検査専門医会事務局

ご自身の納入状況が不明な先生は、事務局までE-mailまたはFAXでお問い合わせください。

【住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について】

住所・所属の変更にともなって定期刊行物、JACLaPWIRE、電子メールなどの連絡が届かなくなる会員がいます。勤務先、住所およびE-mail address等の変更がありましたら必ず事務局までお知らせ下さい。変更事項はホームページから『会員情報変更届』をダウンロードして記載後、FAXあるいはE-mailでお送りください。

なお、本会では、JACLaPWIREの配信を含め、セミナー開催情報等会員様への有用なお知らせを、必要に応じメール配信しております。E-mail addressのご登録がお済みでない先生は、同様に事務局までお知らせくださいますようお願いいたします。

<連絡先>

日本臨床検査専門医会 事務局(水・土日祝祭日は休業日)

電話：03-3864-0804 FAX：03-5823-4110

旧)メールアドレス：senmon-i@jaclp.org

新)メールアドレス：senmon-i@jaclap.org

* 事務局メールアドレスのドメインが変更になりました。前アドレスでご登録をいただいている先生がいらっしゃいましたらご変更をお願いいたします。

【会員の声：次世代の臨床検査専門医】

学部教育から臨床現場へ

北里大学医学部臨床検査診断学

中村 正樹

日本臨床検査専門医会の皆様、はじめまして。北里大学医学部臨床検査診断学の中村正樹と申します。現在、臨床検査専門医を目指して研修中ではありますが、このたび臨床検査専門医会に入会させていただきましたのでご挨拶させていただきます。

<これまでの経歴>

私は2007年に北里大学医学部を卒業し、北里大学病院で2年間の初期臨床研修をおこないました。学生時代から基礎医学を志しており、臨床研修の修了後は大学院(北里大学大学院医療系研究科)に進学し博士の学位を取得しました。所属していた研究室は北里大学医療衛生学部医療検査学科の微生物学研究室で、ウイルスベクターを用いた悪性腫瘍治療研究や薬剤耐性菌の耐性機序の研究に従事しました。2014年から医療検査学科の教員となり、臨床検査技師を目指す学生を対象に臨床微生物学の教育を担当していました。学生教育と並行して北里大学病院の感染対策チーム(現在は抗菌薬適正使用支援チーム)に所属し臨床業務にも携わっておりました。長いこと検査技師の卒前教育に従事していましたが、検査技術が日々進歩する中、自身の知識をブラッシュアップするために改めて臨床現場で学びたいと考えました。そこで医学部臨床検査診断学教授の狩野有作先生に相談したところご快諾してくださり、本年4月より医学部に移籍の上、臨床検査専門医の研修を開始しております。

<現在の状況>

現在の業務内容についてご説明します。教育業務として主に医学部5年生ならびに6年生の病院実習を担当しています。感染症診療の基本、微生物検査の方法、検査結果の正しい解釈を説明し、そこから抗菌薬の適正使用につながる講義をしています。RCPCも行い、検査値の基本的な読み取り方を伝えています。また医療検査学科においても臨床微生物学の講義・実習を担当し、臨床検査技師の卒前教育に従事しています。

臨床業務としては、臨床検査部の運営会議への参加、抗菌薬適正使用支援チームの回診、免疫電気泳動や骨髄像の判読などを行っております。原稿執筆現在、新型コロナウイルス感染症の第7波にあり、急増するPCR検査にどう対応しているかが現在の課題です。医師の働き方改革が推進されている中、今後の臨床検査技師の役割の見直しも迫られています。

研究については薬剤耐性菌の研究をしており、主にMRSAを対象としています。ダプトマイシンなどの抗MRSA薬に対する耐性機序の解析や、ST合剤やリファンピシンなどの代替薬の治療効果について基礎から臨床につながる研究を進めています。

<自身の強み>

臨床医が臨床検査技師と直接関わる機会には一般的にはそれほど多くありません。その点に関して私は他の臨床医と比べて優位であると考えております。これは自身が2年間の研修医期間のうち、臨床検査部に4ヵ月間、病院病理部に2ヵ月間ローテーションしており、臨床研修の4分の1の期間を検査部門で過ごしてきたからです。臨床検査技師の方々の業務内容を知り、交流も深めることができました。また、これま

で臨床検査技師の卒前教育にも長いこと従事していましたので、どのような教育課程を経て臨床検査技師となっているかも知らせています。自身の教え子が臨床検査技師として自施設に多数在籍しているのは大変心強いです。

〈趣味について〉

私は1980年前半生まれのテレビゲーム世代で幼少の頃はテレビゲームばかりしていました。大学以降は漫画・アニメなど色々見ております(最近SPY×FAMILY)。部活はギター部に所属しアコースティックギターをやっています。その他にも料理、お菓子作り、紅茶も趣味としています。コロナ禍でおうち時間が増えたのをきっかけに、資格勉強を始めました。日商簿記2級、ファイナンシャルプランニング技能士2級、基本情報技術者の資格を有しています。幅広く趣味を持ち合わせていますので、今後会員の方々との交流が深められればと思っています。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

臨床検査専門医会の教育セミナーに参加させて頂いて

日本医科大学多摩永山病院臨床検査部

遠藤 育子

日本臨床検査専門医会の皆様、日本医科大学多摩永山病院臨床検査部の遠藤育子と申します。私は1998年に日本医科大学を卒業後、同大学附属病院の循環器内科、肝臓内科および一般内科を担う第一内科に入局し約5年間に渡り同大学附属病院や関連施設にて内科学をご指導頂きました。この中で心臓や腹部超音波検査、ホルター心電図、運動負荷試験などの生理機能検査を学ぶ機会がありました。研修終了後は不整脈学を専攻し、不整脈発症・持続における炎症の関与を研究するために2003年よりオーストラリアのニューサウスウェールズ州立大学の病理学教室に留学する機会を得ました。留学中に免疫学、生化学、微生物学を中心とした基礎研究に必要な技術を習得し、急性・慢性炎症の調節機構における肥満細胞の役割について研究し、同大学でDoctor of Philosophy (PhD)を取得することができました。

2008年に帰国後、日本医科大学多摩永山病院の内科・循環器内科に復職しましたが翌年に出産し1年の育児休暇を取得しました。育児休暇からの復職の際に院長から臨床検査部の臨床検査管理医にならないかという打診がありました。循環器内科医として心電図や心臓超音波検査などに馴染みがあったことに加え基礎研究の経験があったため、検体検査についてもPhD課程で培われた知識と技量が見込まれたようです。初めての子育てに右往左往している最中だったこともあり、有難く臨床検査管理医として復職させて頂きました。当院で初の専従の臨床検査管理医となった私は、当初は業務内容も十分に理解しておらず技師長をはじめ臨床検査技師さん方には多大なご迷惑をおかけしたと思っておりますが、臨床検査部自体

が大変アットホームであったこともあり大変温かく迎えて下さったことが大変印象的でした。

臨床検査管理を担当してみたものの、復帰した私は重要な任務である“精度管理”に関する知識に乏しく、臨床検査医学や統計学の成書を参考に見様見真似で精度管理を始めました。後日、臨床検査管理医講習会に出席させて頂き、日々の精度管理法や外部精度管理の結果の評価法などを系統的に学ぶことができ、大変助かりました。病院での業務はほぼ定時で終わるものの帰宅後は家事と育児に追われ勉強する時間はほぼ取れなかったため、認定医試験への不安は相当ありましたが何とか臨床検査管理医の資格を拝受することができました。

臨床検査管理医の資格を得て安堵の胸をなでおろしましたが、年余に渡り臨床検査医学に携わっているものの臨床検査医学に関する知識は未だ十分ではないことを実感しました。臨床検査に関する知識の臨床医への啓蒙活動を通して臨床検査管理医も患者さんの診断や治療に貢献できると考え、臨床検査管理医学に関する知見を広げるため臨床検査専門医会の教育セミナーに参加させて頂きました。この教育セミナーは臨床血液学や一般検査学、遺伝子検査学などの各分野において知っておくべきポイントなどを講師の先生方が教授してくださるもので、資料・講義ともに大変、質の高いものでした。臨床検査は非常に広い分野を扱うため、何をどこから勉強すべきなのか迷っていた私にはとても有用なものでした。大学を卒業してから既に相当の年月を過ごし記憶力の低下が顕著な私が、分野が広いだけではなく奥も深い臨床検査をどれだけ会得できるか甚だ不安ではありますが、今後も臨床と検査を橋渡しする臨床検査管理医としてできる限り研鑽を積んでいきたいと考えております。

最後になりましたが、これからも専門医会の先生方には引き続きのご指導をどうぞよろしくお願ひいたします。

【編集後記】

今号は諸般の事情で若干遅くなりましたが、執筆者の先生方の素晴らしい原稿をいただき無事発刊することができました。今号では主に昭和大学の木村 聡先生が大会長を務めます「第2回年次大会」にフォーカスを当てて原稿を準備いたしました。3月から4月にかけて臨床検査医学の領域も人事異動があると思いますが、新たな専門医会の先生方も含めてこれまで以上に大会を盛り上げたいと考えています。

JACLAP NEWSも、新規に専門医会に入会いただいた先生方に会員の声をご執筆いただいております。年次大会や日本臨床検査医学会などの学会では、さらなる交流や研究活動の発展につながればと考えています。

(東海大学医学部臨床検査学 後藤 和人)

一般社団法人 日本臨床検査専門医会

理 事 長： 谷直人、副理事長：山田俊幸

常 任 理 事： 東田修二(庶務)、増田亜希子(会計)、菊池春人(資格審査・規定改定委員会委員長)、横崎典哉(渉外委員会委員長)、
福地邦彦(情報・出版委員会委員長)、松下一之(保険点数委員会委員長)、五十嵐岳(広報・ネットワーク運営委員会委員長)、
田部陽子(教育研修委員会委員長)

理 事： 藤井 聡、植木重治、浅井さとみ、山田鉄也、尾崎 敬、北中 明、橋口照人

監 事： 古川泰司、東條尚子

情報・出版委員会：

委員長：福地邦彦

委 員：五十嵐岳、出居真由美、井上暢子、後藤和人、信岡祐彦、盛田俊介、吉田 博

一般社団法人 日本臨床検査専門医会事務局

〒101-0027 東京都千代田区神田平河町1番地 第3東ビル908号

TEL：03-3864-0804 FAX：03-5823-4110 E-mail：senmon-i@jaclap.org